

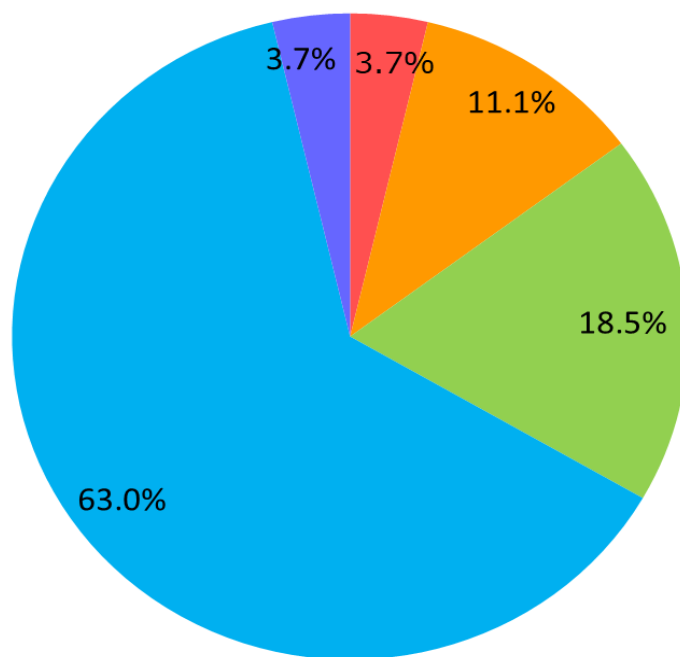
## S SH中間評価（令和4年度実施）の結果について（総括）

対象校27校（開発型・実践型：26校、先導的改革型1校）について、SSH企画評価会議協力者による総合評価及び項目別評価を行った。

### I 総合評価

項目別評価の結果を合計し、6段階評価で行った。一定程度以上の高い評価を受けた学校が3割以上だった一方で、一層の改善努力が求められる学校が6割程度あり、また、このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われる学校もわずかにあることが認められた。なお、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成が困難であると思われる学校はなかった。

#### (1) 構成比



#### 【評価の目安（6段階）】

- 優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される
- これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される
- これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる
- 研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される
- このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される
- 現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり、スーパーサイエンスハイスクールの趣旨及び事業目的に反し、又は沿わないと思われるので、経費の大幅な減額又は指定の解除が適当と判断される

(2) 各対象校の状況 (※は先導的改革型)

【優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される (1校)】

長崎県立長崎西高等学校

【これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される (3校)】

京都府立桃山高等学校  
福岡県立城南高等学校

奈良女子大学附属中等教育学校

【これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる (5校)】

埼玉県立春日部高等学校  
神戸大学附属中等教育学校  
宮崎県立延岡高等学校

名古屋市立向陽高等学校  
島根県立松江南高等学校

【研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される (17校)】

北海道札幌啓成高等学校  
神奈川県立厚木高等学校  
横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校  
兵庫県明石北高等学校  
兵庫県立姫路東高等学校  
山口県立徳山高等学校  
高松第一高等学校  
宮崎県立宮崎西高等学校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校  
長野県屋代高等学校・附属中学校 ※

北海道函館中部高等学校  
神奈川県立平塚江南高等学校  
大阪府立豊中高等学校  
兵庫県立姫路西高等学校  
岡山県立倉敷天城高等学校  
徳島県立脇町高等学校  
大分県立大分舞鶴高等学校  
鹿児島県立甲南高等学校

【このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される (1校)】

大阪府立生野高等学校

【現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり、スーパーサイエンスハイスクールの趣旨及び事業目的に反し、又は沿わないと思われるので、経費の大幅な減額又は指定の解除が適当と判断される (0校)】

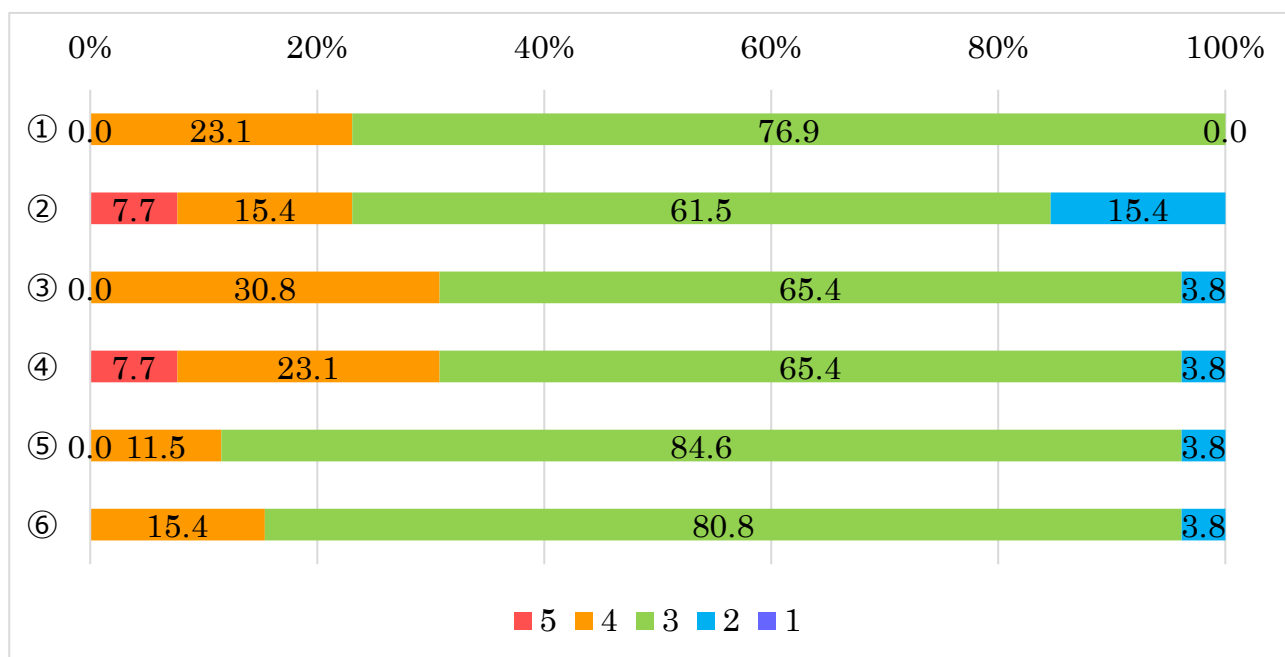
## Ⅱ 項目別評価

各評価項目について、5段階評価で行った。

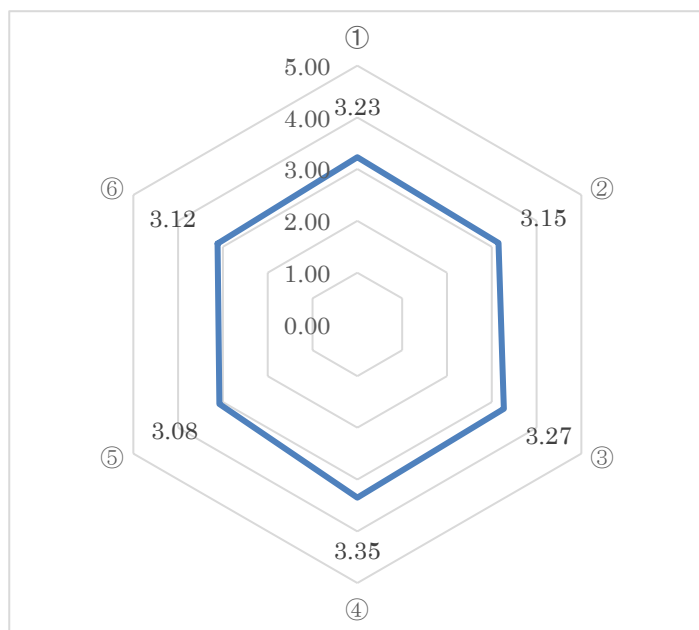
(開発型・実践型の評価項目)

- |                           |                                     |
|---------------------------|-------------------------------------|
| ①研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価 | ②教育内容等に関する評価                        |
| ③指導體制等に関する評価              | ④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価<br>(2項目選択制) |
| ⑤成果の普及等に関する評価             | ⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価                 |

### (1) 項目ごとの構成比 (開発型・実践型の場合)



### (2) 項目ごとの平均値 (開発型・実践型の場合)



#### <評価の目安 (5段階) >

- 5 : 研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高いと思われるもの
- 4 : 研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもの
- 3 : 研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されていると思われるもの
- 2 : 研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要すると思われるもの
- 1 : 研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の大部分が達成されておらず、抜本的な見直しを要すると思われるもの

### (3) 項目ごとの概況

#### ① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価について

- SSH の取組を通して身に付けさせたい資質・能力が曖昧であるため、何を狙っているのかを明確にすることが求められる。また、学校として身に付けさせたい資質・能力がしっかりと身につけているかを評価できるように工夫することが必要ではないか。
- 文系の生徒も科学系部活動に所属し探究活動に取り組む生徒が数多くみられ、かつ成果を出せるようになっている学校もあり、その点は評価できる。今後は、課題研究の対象を理数科のみではなく全校生徒にするなど、文理融合の取組をすることが重要であり、そのような取組を充実させることが必要である。
- 「探究チーム」などを設置して、課題研究のサポートや教師のサポートを行っている点が評価できる。また、理科・数学科教師への校務の負担を軽減するために、理科・数学科以外の教師が SSH の業務を担うなど、学校全体で取り組むことが重要である。
- 運営指導委員会を含めて、事業全体についての成果分析をより一層充実させることが望まれる。また、SSH 指定前後の成果等を分析できるようにするために、指定前に関する質問項目も入れ込んで、指定前後の比較ができるようにする等の工夫が必要である。
- 新しく着任した教師に対して SSH 事業のオリエンテーションなどを通して成果が伝承されていることは評価できる。
- 課題研究や探求活動の効果について、アンケートや自由記述などを詳細に分析し、それを授業改善に反映させるという PDCA サイクルが生かされており、評価できる。
- 質問や議論は探究活動の中核をなす行為であり、普段の授業から生徒が気軽に意見表明できる態度づくりと授業環境づくりをしていくことが必要ではないか。
- 特にⅢ期目以降の学校については、自校の中だけの成果で満足するのではなく、市内や他の地域の学校の参考となるように、取組をより一般化していく必要があるのではないか。
- 今後、生徒や教師に SSH の取組を理解してもらうことや取組の成果の丁寧な分析などが求められる。
- V期の基本は、IV期までの実績を元に域外への普及を目指しての先導的モデルとなることであることに留意することが必要である。

#### ② 教育内容等に関する評価について

- 課題研究に関する取組が3年生の教育課程内で位置づけられていない学校もあり、教育課程内での課題研究の時間確保や指導方法などの改善が必要ではないか。
- 探究的な学習活動に係る取組について、文系的なテーマにおいても、SSH の趣旨に沿って、科学的な視点を盛り込んでいく工夫が必要ではないか。
- データサイエンスを SSH 事業の主な目的として取り組んでいると評価される学校があったが、理数系人材を育成する観点が入っていないため、データサイエンスを活用して理数系人材を育成していくという視点からの修正が必要ではないか。
- 文系の科目を含めて、教科融合的な指導体制を構築し、探究活動の成果も生かされることが一層期待される。また、STEAM や SDG s を取り入れながら各分野・領域のつながりを重視した教育活動を進めていくことが今後求められるのではないか。
- 中等教育学校として、中学段階からの教育課程を生かした内容で充実させていて評価できる。
- 探究活動に対して、否定的な評価をする教師が多いので、校内での共通理解を深める努力がさらに必要ではないか。

- 生徒への評価結果を生徒の能力育成に結び付けるために、評価方法を工夫することが必要ではないか。
- 年間2回の授業見学週間を設定し、全教師で授業の相互見学を行う取組は評価できる。

### ③ 指導体制等に関する評価について

- 全教師による一人一役制をとるなど、各教師の負担軽減に配慮した指導体制を構築することが重要ではないか。
- 管理職が指導力を発揮するなどして、学校全体の意識を高めて指導体制を整えていくことを期待したい。
- オンライン環境が整備されることは、教師間や運営指導委員との間で、リアルタイムな情報伝達などができるようになり、教師の指導力の向上に繋がるのではないか。
- 教師がファシリテーターの役割とメンターの役割を持てるように、指導体制を構築されているのは、評価できる。また、メンターと教科担当者で構成される専門アドバイザーの協力体制が優れているため、今後は、他の学校も活用できる形にしてほしい。
- 研修などを通じて、学校全体での指導力の向上が図られていることは評価できるが、SSH科目以外の教師の関わりをより充実することが必要ではないか。
- 課題研究の授業に大学の研究者を招聘し、質の高い課題研究の指導体制を構築したことを踏まえて、高校自身での質の高い指導への自走にも期待される。
- 他校からの訪問を積極的に受け入れることが、教師の指導力の向上にどう繋がるかについて、明らかにすることが求められる。
- 教師の指導力向上にあたっては、学習評価を活用するなどして、生徒の資質・能力の向上を意識し、授業改善をすることが望まれる。
- 教師の指導力向上のために、毎回の探究活動後に生徒が記入したリフレクションシートと探究活動の成果物を教師間で共有し、PDCAサイクルに基づいた指導手法を共有していることは評価できる。

### ④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価について

- 大学や企業、地域等との連携、小中学校や他の高校との連携に関して、それらを持続可能なものにするためのポイント・方策を明確にするなど、更に工夫をしてほしい。その際、外部連携に関する取組と生徒の探究力向上などと有機的な繋がりが出るような工夫や生徒の主体性を育成する工夫が必要である。
- コロナ禍ではあるが、オンラインにより様々な国との交流が進んでいる一方で、今後は、海外研修・国際共同研究などを現地で行うなど、海外との連携をより充実させてほしい。
- 大学生などのTAを実習として受け入れているのは良い試みであるため、指導助言の内容について、TAと教師との情報共有を強化して、生徒の成長に資するような方向性をしっかり示すことが求められる。
- 課外活動での課題研究が活発に行われており、全国レベルや世界レベルの質の高い課題研究を毎年生み出していることは評価できる。部活動のメンバーが核となり、理系の課題研究の質を高めていけるような有機的なつながりを構築していくことが期待される。
- 管理機関の主導による県内の大学との連携協議会や県の経済団体との連携協定が、当該校の課題研究の指導に生かされている。
- 高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試に、SSH指定校以外の学校が参加することは優れている。

## ⑤ 成果の普及等に関する評価について

- 汎用性のある成果等を HP 上に積極的に公開し、更にはその活用性を高めるための継続的な HP のメンテナンス体制を構築することが期待される。また、他校により活用された事例を把握することも必要ではないか。
- 新聞やテレビを通じた報道回数も相当であり、HP での公開もかなりされており、今後、国内外への研究成果の発信と共に、地域への広報活動など、更なる普及等に関する取組にも期待したい。
- 海外連携校との国際共同研究のマニュアルや探究活動のマニュアルを作成し公開していることは望ましいので、今後更なる改善が望まれる。
- 外部の国際・国内コンテストの継続的な参加と着実な成果のための支援のプロセスのモデル化や具体的な支援の教材開発などを期待したい。
- 先輩から後輩への成果の継承として、2年生から1年生への引継懇談会が設定されているが、課題研究力が最も高いと考えられる3年生の活躍する場を設定することが必要ではないか。
- V期校については、HP 上での公開以外に、全国に研究成果を発信するための工夫・努力がさらに必要ではないか。
- 教師の異動に伴う SSH 事業の共有・継承は困難を予想されるが、授業改善チームの運用などで工夫した取り組みが行われていることは評価できる。

## ⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価について

- 県内における SSH の意義を明確に位置付け、それを踏まえて県内の各学校にも成果の波及や、県の理数教育向上のためにネットワークの構築を推進することを期待したい。
- 各自治体で指定されている SSH 校に対する一律の支援のみならず、それぞれの SSH 校の特徴に合わせた独自の支援をすることが望まれる。
- 高校で新学習指導要領が今年度から始まっている状況を受けて、県内の SSH の各学校で取り組んできた探究的な活動が、その他の高校の参考となるような働きかけがより重要となっているのではないか。
- 全府的な取組を進めてネットワーク構築を進めていることは評価できるため、今後、他地域への発信・連携を含めて、更なる充実が望まれる。
- 県内の大学・研究施設・企業等の連携協定を管理機関の教育委員会が代表し結ぶことで、多くの SSH 校が個別に行うより、交流等が進みやすく評価できる。
- 県内の大学との連携協議会や県内の経済団体との連携協定を結ぶことで、県内の SSH 校を含めた学校への教育活動に資することに貢献している。また、県内の大学の外国人講師の活用や教師の大学院への派遣など、双方向活動ができています。
- ALT や過去 SSH 指定校で勤務していた教師などを活用して、人的支援を充実することが必要ではないか。
- 生徒学習用タブレット端末の整備や定数加配は評価できる。
- 部活動などでは高度技術を有する外部人材の活用が有効な案件が多く見られると考えられるので、生徒の要望が反映される指導法の研究も望まれる。
- 理数系女子育成などを進める先進的モデル校としてサポートしているところが評価できる。
- V期目の指定校として、県内だけではなく、域外への横連携のモデルとなるように支援することが期待される。